

- 〈高山右近研究〉のことで、インタビューを受けました。

高槻ゆかりの 「高山右近」のことなら おまかせ！

※ していることは？

- ・ 高槻とゆかりのある、高槻城主（12年間）だった、キリシタン大名「高山右近研究」をライフワークにしています。
- ・ 研究の成果は、インターネットのホームページ「高山右近研究室・久保田へようこそ」に、どんどん発表していっています。よろしければ、ご覧になってみてください。

※ 動機は？

- ・ 古今の人物で、高槻と関係のある有名人を誰か一人挙げるとしたら、だれを挙げられますか。いろいろな人の名前があがってくるかもしれませんが、やはり一番多いのは、〈高山右近〉なのではないでしょうか。
- ・ 私は、高槻で生まれ、高槻で育ち、今（72歳）までずっと高槻ですごしてきました。高槻の町をこよなく愛しています。その高槻にゆかりの深い、偉大な人物から是非学んでいきたいと思いました。

※ 具体的には、どんなことを？

- ・ 「高山右近」に焦点をしばって、深く深くほりさげ、あらゆる面から研究していています。高山右近さんのことでしたら、なんでもおまかせください、といえるようにしたいと思っています。
- ・ 自宅に「高山右近研究室・久保田」を開設して、ここにすれば〈高山右近〉に関することは何でもわかる、という場所にしています。
- ・ 毎週木曜日（午前10時～12時）、カトリック高槻教会でもたれている「高山右近研究会」に参加しています。
- ・ NHKなどで、「高山右近」に関する番組をつくる時、ホームページを見て連絡してくださり、協力させていただいています。

※ 教えられたことは？

- ・ 高山右近は、「キリシタン大名」として有名で、キリシタン名は“ ジュスト ” (義人という意味) 「高山ジュスト右近」と呼ばれていました。
- ・ 高山右近だけではありませんが、当時のキリシタン達の生き方のキー・ワードは、「愛」でした。主なる神・デウスに対する愛、その同じ愛をもって隣り人を愛していきました。
- ・ 400年前の当時の日本語では「愛」ということばは、ちがった意味で使われていたので、別の日本語に訳しました。「ご大切」・動詞は「ご大切にする」自分の身近にいる人たちを、キリストだと思って、「ご大切」にしていきました。
- ・ 城主の右近でさえ、貧しい人の葬儀の時、城主自ら、お父さん(ダリオ飛騨守)と一緒に棺をかついだ話は、有名です。  
当時は、“ 聖・ひじり ” と呼ばれ差別されていた人達の仕事だったのです。
- ・ 寒さにふるえている兵士に着物を与えたり、戦で夫をなくした妻に配慮を示したり、現代的に言えば、当時の高槻は、「愛と福祉の町・高槻」だったといえるのではないのでしょうか。
- ・ しかし、右近が高槻を去った後は、秀吉 ~ 徳川へと時代が進む中で、そうした、権力者・支配者にとって危険きわまりない考え方は、“ 徹底的に弾圧し、封建支配していく町・高槻 ” になっていくのです。(高槻藩主は、譜代大名でした。) さて、今の高槻はどうなのでしょう？

※ 近ごろの研究で何か？

- ・ ホームページにも、〈アツと驚く大スクープ〉としてのせていることですが・・・高山右近が残した和歌・“なでしこの歌” 二首があるのですが、ずっと右近のオリジナルのものだと思われてきました。しかし、そうではなくて、「源氏物語」の光源氏などの歌の“本歌取り” だったことを見つけました。
- ・ 右近は、千利休の高弟でしたし、能や和歌もよくされていましたが、「源氏物語」や「太平記」などの物語も、よく読んでおられたようですよ。

どうも、ありがとうございました。